



光が丘

大津市立晴嵐小学校 学校だより3月号
在籍児童 869名 令和8年2月27日

学校教育目標 求めて学ぶ子 ~ふるさと晴嵐に愛着と誇りを~

いよいよ3月、今年度もあと少し



校内百人一首大会
(全学年・希望参加)



早いもので今年度最後の月を迎えます。少しずつ寒さが和らぎ、日中の暖かさは春の訪れを感じさせます。

2月26日の学習参観には、多くの保護者の皆様に来校していただき、誠にありがとうございました。年度末が近づき、子どもたちなりにしっかり締めくくろうとしている姿をご覧いただけただけでしょうか。

さて、来たる3月18日には、159名の6年生が小学校の全課程を修了し、卒業式を迎えます。この1年間、最高学年として、様々な場面で活躍してくれました。小学校生活での自分たちの成長をふりかえるとともに、新し

い中学校生活に向け希望を持って進んでいけるよう後押ししたいと考えています。また、見送る在校生には、卒業生から晴嵐小学校のよい伝統をしっかりと受け継ぎ、よりよい学校にしていこうという気持ちで新年度が迎えらるよう指導してまいります。

ご家庭におかれましても、1年間のお子様の成長を互いに喜び合い、4月からの進級進学に向けて励ましてくださいますようお願いいたします。

コラム「教室の風景」

⑭

大津市教育委員会が、作家やアナウンサーなど表現のプロやアスリートを学校に派遣する『学校夢づくり+ (プラス)』という事業を行なっています。昨年度は、本校もこの事業に当選し、作家の今村翔吾さんとアナウンサーの能政夕介さんにお越しいただき、6年生に向けて語っていただきました。先日、私が市教委でこの夢づくり+に関わっていた頃の、次のようなメモが出て来ました。

著名人の話を聞いて、多くの子が「夢を持つことの大切さがわかった」と感想を述べる一方で、特に中学生の感想の中には、「今、夢がなくても大丈夫と言ってもらって安心した」「夢を強要する感じがなかったのがよかった」「夢を持つのに焦る必要はないと聞いて、心が軽くなった」などと書かれているものも少なくない。

私たち大人は、子どもたちのこのような声に、もっと敏感にならなければならないのではないかな。

確かに、現存の職業の多くがAIに取って代われ、近い将来姿を消してしまうと言われる先行き不透明な状況の中で、将来の夢や目標を持つことが本当に可能なのだろうかと感じることがあります。むしろ、夢や目標を曖昧なままに生きていく方が、変動社会に適應できるという面がある気さえします。

そういう意味では、将来の夢や目標を考えると、職業ではなく、まずどんな大人になりたいかを思い描くことが大事なのではないでしょうか。そこで、「あなたはどんな大人になりたいの?」と、一度、お子さんに聞いてみてはいかがでしょうか。

もしかすると、意外な答えが返って来るかも知れません。

【校長 富永】